

＜事前評価＞

研究番号	1	担当部	健康・食品安全科学部	研究期間	令和6～8年度
研究課題名	食品による健康危害事例に対応した検査法の検討 その2 -キノコ等の自然毒について-				
研究課題概要	<p>研究目的 全国的に発生している自然毒食中毒の中で、キノコによる食中毒はその3割ほどを占め、死亡事例の報告もある。キノコの関与が疑われる健康への危害発生時に、原因究明及び危害拡大防止に資するため、種の同定及び有毒成分を迅速に検査できる体制の構築を図る。</p> <p>研究計画 (1)キノコの種の同定に関する検査方法の検討 (2)有毒成分の分析法の検討 (3)キノコの関与が疑われる健康への危害事例に対応した検査体制の整備</p>				
評価結果	A	優先的に実施することが適当			
委員会意見	<p>キノコなどによる中毒の原因解明は治療方針の決定や、県民への注意喚起に非常に重要である。今回第一歩として特異的プライマーを用いた検出を行うということであり、実現性が高く、食品グループの新たな取り組みとして期待できる。今後、温暖化によりキノコの生育地域や形態等が変化する可能性があることから、網羅的解析を含めてさらに検査方法の充実を期待したい。</p> <p>一般人が摘むキノコによる食中毒防止は公的機関が取り組むべき課題である。毎年、食中毒が発生し、死亡者まで出ているにも関わらず、未だに形態学観察に頼っているキノコ中毒について、検査法の確立は焦眉である。公的研究所として、優先的に取り組むべき課題である。石川県保健環境センターの研究がキノコ毒研究全体の中でどのような位置にあるのか、明確に示して頂きたい。具体的には国内外の、キノコ毒研究の進捗状況を示し(国立医薬品衛生研究所、大学など)、特に本県が対象とするキノコ研究の状況を示し、県保健環境センターの研究の位置づけを明確にして頂きたかった。</p> <p>キノコによる食中毒は多くないが、毎年発生する。キノコの鑑別は残っていたキノコの形態学的な特徴により判定していたが、遺伝子学的手法を用いれば確実に同定することが可能となる。また、この研究に携わることにより、より多くの職員がPCRなどの遺伝学的手法で検査が行えるようになり、より大きな規模の被害発生に迅速に対応できる高度な技術を備えるという側面からも有用な研究と考えられる。</p> <p>食中毒による死亡原因として重要なキノコを調査対象とした点は妥当であり、優れた着眼点である。原因食品の同定を遺伝子検査によって実施するとの目的もよい。しかし、提示された特異的なPCRを用いたアプローチでの評価では、想定外の真性菌類(キノコを含む)が原因の場合に見逃しのリスクがあるため、ユニバーサルPCRをベースとしたシーケンス評価のアプローチを考慮されたい。また、このようなアプローチでは、さらに植物を含めた評価系とすることも可能と考えられる。可能な限り広範な食中毒の原因となる自然由来食品材料を同定可能な網羅的分子スクリーニング系の確立を目指して欲しい。</p> <p>食中毒の発生原因として、特に死亡事例では多くを占める自然毒の一つとしてキノコが挙げられ、その大半が家庭で発生しているということが県として関与する必要性を示している、という点で問題意識が明確であると思います。 現地で日常的にキノコを採取しているような方があれば、そうしたところからの情報収集も含めた地域との連携にも期待します。”</p> <p>植物性の自然毒の中では、キノコは特に見分けが困難で、家庭で食中毒が多いと思われる。キノコ全般にわたって毒性検査のうえ、安心して山のめぐみをいただけるようにと思っている。とても期待しています。</p>				